

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成23年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野村町という素朴で静かな田舎の環境を有効に取り入れ、川や田畑の真ん中で自然の空気を昔ながらに味わい、近隣の保育所や学童保育の子供達の声や訪問を心待ちにしている。今まで過ごした環境にもにて近所の方の声掛けや散歩途中の会話が楽しみです。昔懐かし変わらない人々に心情が伝わって来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開院100周年を迎える、地域に根ざした診療所が運営をしているホームで、利用者も職員も地元出身者が多い、方言が飛び交う、職員の入れ替わりが少ない等、アットホームで安定した環境の中で利用者はゆったりと過ごすことができている。また、食事をつくる専任の職員を配置し、栄養士の資格を持った職員が栄養管理をする等、利用者のごことを常に考え、利用者を中心にホームの運営がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹の園

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 清水 勝美

評価完了日 23 年 8 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 新設当時より、職員の入れ替えもあり、理念をも一度共有し意識づけて行くための話し合いをしてゆく。</p> <p>(外部評価) 地域医療に力を入れている診療所が運営法人であるため地域や近隣住民との交流を意識した理念となっている。理念自体がホームの具体的な運営方針や職員の行動指針になっており、日々のケアに直結している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周辺の田畑で、農作業中の方と挨拶や会話をする。納涼祭にも招待している。近くの保育所との交流もしている。</p> <p>(外部評価) 運営法人である診療所が長年地元の医療機関として信頼を得ており、地域とはイベントでの交流だけでなく、日常的なつきあいができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 納涼祭などに、近所の方の招待や踊り、演奏などで交流する。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の会議を持っている、小学校長、消防署長さんにも出席して頂き意見交換や避難訓練等のアドバイスをして頂きました。	
			(外部評価) 会議では、利用者のサービス向上に直結した議題が取り上げられ、参加者も積極的に関わっている。また、ホームも地域福祉に貢献するよう努めており、地域と共に運営していることが理解できる。	会議は運営法人の会議室で行われており、参加者がホームの利用者とふれあうことがない。利用者の顔や状況を見てもらうことでより深い理解と具体的な提案が可能となるため、ホーム内での開催を検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にも出席して頂き情報提供してもらう。	
			(外部評価) 市担当者との連携も円滑に行われており、堅固な協力関係が構築できている。また、管理者が地元で長年福祉に携わっているため、関係機関との関わりも深く、良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現状では、身体拘束はしていない。人権侵害である事、職員全員が認識し、見護りしながら安全確保する。研修にも参加している。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアが実践されている。指定基準における禁止の対象となる行為についても具体的な例を挙げながら研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加して意識を高める、職員と利用者との関係を築えながら早期に防止する。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修会に参加し、学んだ事を文章に記録しておき、職員会でも発表し、全員で介護に活かすようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に於いては、事前に介護関係者から情報を得、本人家族等の方々の希望を十分に聞いて安心して生活頂くように図る。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱の設置、月1回は来園されるので意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 利用者の何気ない言葉を汲み取り家族等と深く話し合う等、意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見や要望は、管理者や職員で検討され運営に反映される仕組みが構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年1回は施設長との面談があり、意見や要望を聞く機会がある。  (外部評価) 管理者は高齢者ケアの経験が豊富で、自らもケアの現場に入り、一人ひとりの職員と話し合いながら意見等を聞き取っている。管理者は運営者からの信頼も厚く、職員と法人をつなぐ役割も担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格手当があり、次なる資格取得の奨励もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修にも積極的に参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くのGHと交流しています、相互研修にも今年からチャレンジします。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の分からないこと、不安な事などに傾聴し、向き合っていくよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 来訪時には要望、不安などを必ずお聞きして記録する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療と連携して、安心して頂き、家族の希望や要望は出来るだけ受け入れるサービスに努める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) これまでの経験談を聴き、学び、共に生活し良い関係を築いて居ます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お花見や納涼祭を行い、家族と共に過ごせる関係を築いて居る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の友人、知人にも来訪をお願いしている。  (外部評価) 利用者の知人や友人がホームを訪ねてくる機会が多く、管理者や職員も家に遊びに来てくれているという感じで迎えている。地域に住んでいる職員も多く、利用者と馴染みの人や場所等の話題が共有できるため、関係継続の支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールに出られた時は、皆で歌を唄ったりお話などして和やかな雰囲気になるよう努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 自宅へ退去されたが、気軽に来所して頂く様にしている、	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや希望、意向の把握に努め、一人一人の思いを大切にしている。  (外部評価) ホームを利用する以前から利用者に関係がある職員も多く、その時に知り得た情報や、日常会話から聞き取った生活歴等から思いや意向の把握に活用している。利用者や職員の入れ替わりが少ないため、利用者のことについては一定水準以上の理解がされている。	利用者の生活歴の共有化は、口頭で行われることが多いために、職員がどのくらい把握しているかの確認が難しい。利用者に関する貴重な資料として、介護記録とは別にまとめる等工夫をしながら、利用者の生活歴等の情報を整理、記録し情報の共有に努めるよう今後の取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人との会話や、家族から生活歴や楽しみを聞き、馴染みの暮らしが出来るように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の流れの中でコミュニケーションをとりながら体調、心身状態の把握に努める。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全員が集まる機会を設け一人一人の意見を取り入れている。家族の方へ近況報告し要望等を介護計画に行かしている。  (外部評価) 介護計画はユニット長が中心となり、利用者それぞれの担当職員と共に立案されている。また、介護記録をもとに毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員の意見を丁寧に聞き取り介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ささいな事でも記録に記し、職員間で一人一人の様子がすぐに分かるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 音楽療法、保育所、幼稚園との交流会がある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 出張での理容、通院介助、近辺へのショッピング、食事（外食）等で地域の方々とふれ合う事がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期受診しており（月1に）1ヶ月の様子を主治医に伝 えている。定期受診以外でも、本人の訴えのある時の 受診も行って適切な医療を受けている。</p> <p>(外部評価) 地域医療に熱心に取り組んでいる公立病院の医師が利 用者のかかりつけ医で、運営法人の診療所と連携、協 力しながら利用者が適切な医療を受けられるよう取り 組んでいる。定期的に往診や通院も行われており、利 用者が安心して生活できるよう支援されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 定期的な医者、看護師の往診の際、日頃の健康状態を 報告、相談している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 情報交換出来ている</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族の方が安心出来る様、話し合いも行い、出来る限 り意向に添うようにしている。</p> <p>(外部評価) ターミナルケアは、地域医療に熱心に取り組んでいる 公立病院の強力な支援のもと、利用者や家族の希望に 添うようにホーム全体で取り組んでいる。ホームで できることできないことを十分に承知した上で、可能な 限りホームで安心して過ごしてもらえるようケアに取 り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時の応急手当、初期対応の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練、避難訓練を実施、地域への防災組織へのお願いをしている。  (外部評価) 年2回の避難訓練を行っている。利用者の安全をより確実に確保するために、職員全員で防災意識の再確認を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 努力している、特に排泄介助には羞恥心など傷付けない工夫。  (外部評価) 職員が行う方言での声かけは、親しみや優しさを感じることができ、一人ひとりの利用者を大切にしていることが理解できる。また、職員は時には利用者の子どもや孫になり、利用者を否定しないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃のコミュニケーション等により、利用者の希望をくみ取り支援している。意思表示が出来ない場合は家族との話し合いにて相談している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 穏やかな生活が出来る様に本人の要望や生活活動状態に合わせて支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容師の訪問の際、本人希望の髪型にセット整える。男性はひげ剃り介助している。本人好みの服を介助して選んで頂く。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介助が必要な方の隣りにて、一緒に食事している。誕生会には手作りのケーキでみんなで楽しむ、利用者さんの出来る事は一緒にしている、会話の中で希望のメニューになる時もある。  (外部評価) 食事をつくる専任の職員が配置されているため、介護職員が利用者によく関わることができ、全介助の利用者の食事介助も利用者のペースでゆったりと行われている。栄養士の資格を持った職員が栄養面の管理をしており、健康管理の面からも充実した食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取の量をチェックして1日全体を等してカロリー、栄養不足が起こらないようにしている、体重の増減にもチェックしている。食器にもその人の使いやすい物を利用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、コップ、ハブラシ、の除菌、2日に一度行い義歯も周1回除菌している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) PTが必要な方は、室に於いてある、介助が必要な方には排泄時間チェックして誘導している、昼間はなるべく尿パットを使用しないようにトイレ見守りしている。	
			(外部評価) 失敗した時のために常時蒸しタオルを準備する等、細やかな配慮を行っている。気持ちよく過ごしてもらうことを目標に職員は排泄の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックをしている。水分補給をこまめにし、医師の指示で薬の調節など個別にしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人希望で当日拒否の場合は次の日に入浴されている。順番も本人希望にしている。	
			(外部評価) 職員の勤務時間内で利用者の希望に合わせている。入浴の苦手な利用者には、声かけの方法や職員の関わりを工夫しながら支援している。高齢の利用者が多いため、体調に合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 希望に応じて、エアコン利用し気持ち良く過ごせる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬を防ぐために職員2名にて本人と薬袋の確認をしている。便秘薬は服用の調節をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 会話の中から楽しみ、希望を取り入れている、気分転換に外気浴を楽しんでいる。オヤツの時、嗜好品や手作りを提供できるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族さんの協力もあり、帰宅支援される方もある。体調を見ながら本人希望で対応している。	
			(外部評価) 玄関先の広い駐車場は、外気浴には最適な場所となっている。学童保育の建物が隣接しているため、子ども声がホームに届き、それが外出のきっかけになることもある。ホームの周りは自然が豊かで、季節の移り変わりを感じながら散歩ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面で大丈夫な方は自分で所持されている、買いたい物がある方は職員に頼まれ一緒に買い物に行かれる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙など、手の不自由な方の代筆をしている、本人希望により家族に電話される時はプライバシーを守るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホール内には、写真や折り紙をかざっている。	
			(外部評価) 広い共用空間は、ソファやダイニングテーブルがゆったりと配置されている。車いすの利用者が移動しやすいようにテーブルの間隔も広くしている。広い壁面が殺風景にならないよう写真や季節を感じる飾りつけが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さん同士、会話が弾むように席を変えたり、テーブルの配置を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室のドアには名札を付けたり本人の写真を貼って室内には家族さんの写真を貼っている。	
			(外部評価) ベッドはホームの備品として用意されており、利用者の状況に合わせて、一般のベッドと介護用のベッドが使い分けられている。家具類を自由に持ち込み、利用者それぞれの個性が感じられる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ポータブルトイレなどを使用されてる方は、出来るだけ自分の事は自分でして頂くようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12号106番地
自己評価作成日	平成23年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の変化をいつも体で感じながら、四季を味わっている、春の田植えでは大型耕耘機を牛の耕作だと言われたり、散歩大好き人間が多く、自由に散歩しながら自然を満喫出来る、近隣の景勝地はほとんどドライブしました、外出先でのお食事は自分の好みの食事がとれます。所内ではホトンドの方はホールで過ごします、思い思いのスタイルと施設間の交流も又、楽しみの一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開院100周年を迎える、地域に根ざした診療所が運営をしているホームで、利用者も職員も地元出身者が多い、方言が飛び交う、職員の入れ替わりが少ない等、アットホームで安定した環境の中で利用者はゆったりと過ごすことができている。また、食事をつくる専任の職員を配置し、栄養士の資格を持った職員が栄養管理をする等、利用者のごことを常に考え、利用者を中心にホームの運営がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹の園

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 清水 勝美

評価完了日 23年 8月 7日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 近隣の付き合いを大切にして、利用者一人一人を大切にして、その方の思いを大切に落ち着いた生活の場を提供できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 地域医療に力を入れている診療所が運営法人であるため地域や近隣住民との交流を意識した理念となっている。理念自体がホームの具体的な運営方針や職員の行動指針になっており、日々のケアに直結している。</p>	管理者は、理念の言葉を表面だけでなく奥に秘められた意味を職員と確認し合うことの必要性を感じている。会議の議題としてだけでなく日常的に話し合いを行う姿勢を持ち続け、今後も理念に基づいたケアが実践できるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 保育所から保育園児の訪問、散歩、通院時、納涼祭などを通じて会話やふれあいが出来る様になっている。</p> <p>(外部評価) 運営法人である診療所が長年地元の医療機関として信頼を得ており、地域とはイベントでの交流だけでなく、日常的なつきあいができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 訪問して頂くボランティアの方、ご近所、商店の方などには直接に会話などで情報の交換などを行う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者、家族、地域の有識者などを交えて話し合い、意見交換などサービス向上に繋がっている。	
			(外部評価) 会議では、利用者のサービス向上に直結した議題が取り上げられ、参加者も積極的に関わっている。また、ホームも地域福祉に貢献するよう努めており、地域と共に運営していることが理解できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 勉強会に市職員の介護に関する講演などでアドバイスを受けている。	
			(外部評価) 市担当者との連携も円滑に行われており、堅固な協力関係が構築できている。また、管理者が地元で長年福祉に携わっているため、関係機関との関わりも深く、良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会などに積極的に参加し拘束しないよう利用者の安全を守りながら暮らしの支援をしている。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアが実践されている。指定基準における禁止の対象となる行為についても具体的な例を挙げながら研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員一人一人に参加し勉強会などで話し合う場を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県グループホーム協会の研修会に参加しているが、活用までには至らない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前には関わりある多数の事業者と連絡し、情報の取得に努力して本人を含め家族のかたにも納得頂く様にご説明する。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族への連絡、相談、要望、意見の記録を設けてサービスの向上に繋げている。	
			(外部評価) 利用者の何気ない言葉を汲み取り家族等と深く話し合う等、意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見や要望は、管理者や職員で検討され運営に反映される仕組みが構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会、カンファレンスなどで意見を出し合いより良い介護になるよう努力している。  (外部評価) 管理者は高齢者ケアの経験が豊富で、自らもケアの現場に入り、一人ひとりの職員と話し合いながら意見等を聞き取っている。管理者は運営者からの信頼も厚く、職員と法人をつなぐ役割も担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心を持って資格の取得に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会、カンファレンスなどで意見交換をしている・	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くのGHと交流し、良い所は取り入れ、質の向上に努める。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族や面会者などから、本人の情報を得て穏やかな生活をしてもらうように努める。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が訪問されたとき、現在の状態を伝え安心して頂く。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の意見を優先して相談しながら支援する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介助する側、される側と線を引き自然体での関係を目指す。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の折りには、利用者さんと一緒にお話したり家族さんの寂しさや利用者さんとの関わりをお聞きする。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 音楽療法、他GHとの交流会などで交流をふかめる。  (外部評価) 利用者の知人や友人がホームを訪ねてくる機会が多く、管理者や職員も家に遊びに来てくれているという感じで迎えている。地域に住んでいる職員も多く、利用者と馴染みの人や場所等の話題が共有できるため、関係継続の支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で意思疎通の出来ない時は中に入って互いの気持ちを伝える。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方や、その家族にお会いする機会がある時は相談に応じてたりお話をお聞きする。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の訴えにはなるべく添うよう努力する。  (外部評価) ホームを利用する以前から利用者と関係がある職員も多く、その時に知り得た情報や、日常会話から聞き取った生活歴等から思いや意向の把握に活用している。利用者や職員の入れ替わりが少ないため、利用者のことについては一定水準以上の理解がされている。	利用者の生活歴の共有化は、口頭で行われることが多いために、職員がどのくらい把握しているかの確認が難しい。利用者に関する貴重な資料として、介護記録とは別にまとめる等工夫をしながら、利用者の生活歴等の情報を整理、記録し情報の共有に努めるよう今後の取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族などから、今までの生活状態等を聞き、馴染みやすい暮らしをしてもらう、本人からも話を聞く。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人を尊重し、各々に合う手助けをしてゆく	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の要望を聞いたうえで計画をしっかり立て出来る事から支援している。	
			(外部評価) 介護計画はユニット長が中心となり、利用者それぞれの担当職員と共に立案されている。また、介護記録をもとに毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員の意見を丁寧に聞き取り介護計画がよりよいものになるよう努めている。	介護計画を意識した記録方法を取り入れたり、介護目標を数値化する等、職員が介護目標を絶えず意識し、利用者が達成感を感じることのできる工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアや介護記録、日常の変化などを記録し、職員間で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出、外泊ショッピングなど急な要望にも敏速に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 一人一人の状況に合わせ協力しながら支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意見に合わせ支援を行い、結果報告を家 族に伝えている。  (外部評価) 地域医療に熱心に取り組んでいる公立病院の医師が利 用者のかかりつけ医で、運営法人の診療所と連携、協 力しながら利用者が適切な医療を受けられるよう取り 組んでいる。定期的に往診や通院も行われており、利 用者が安心して生活できるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 井関医院の看護師さんが訪問時に相談したり市内の病 院に再診察時に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は洗濯物を取りに行き、利用者さんと会話した り、医療機関から状況を得るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や本人の希望などを充分にくみ取り、話し合いな がら納得が得られるよう対処する。  (外部評価) ターミナルケアは、地域医療に熱心に取り組んでいる 公立病院の強力な支援のもと、利用者や家族の希望に 添うようにホーム全体で取り組んでいる。ホームで できることできないことを十分に承知した上で、可能な 限りホームで安心して過ごしてもらえるようケアに取 り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、人工呼吸などの研修に参加している。体調が急変した時のマニュアルがある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、消防訓練を行っている  (外部評価) 年2回の避難訓練を行っている。利用者の安全をより確実に確保するために、職員全員で防災意識の再確認を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳を持ってサービス提供や、言葉使いに注意している。  (外部評価) 職員が行う方言での声かけは、親しみや優しさを感じることができ、一人ひとりの利用者を大切にしていることが理解できる。また、職員は時には利用者の子どもや孫になり、利用者を否定しないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の出来ない人のは、家族と話し合い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の気持ちを大切に無理強いすることなく個人のペースに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1～2ヶ月に1回、理容師さんに来て貰い散髪をしている。以前より使用されていた化粧品を持参していただき使用されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食材を使用し、昔話をしながら思い出話に花が咲く、その人が出来る仕事を分担し気持ち良く自分の仕事をされる、時々はお外食を楽しむ。  (外部評価) 食事をつくる専任の職員が配置されているため、介護職員が利用者によく関わることができ、全介助の利用者の食事介助も利用者のペースでゆったりと行われている。栄養士の資格を持った職員が栄養面の管理をしており、健康管理の面からも充実した食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんの献立表に基づき季節の野菜を取り入れ一人一人摂取状態に合うようミキサー、キザミ食で支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が出来る人は声かけし、出来ない人は介助、義歯は週1回、ポリデント消毒、コップはブラシは3/w回消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の癖、習慣を把握し態度の変化を見落とさないよう、気配りし、トイレでの排泄を心がけている、排泄記録を参考に本人に声かける。	
			(外部評価) 失敗した時のために常時蒸しタオルを準備する等、細やかな配慮を行っている。気持ちよく過ごしてもらうことを目標に職員は排泄の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が続くと不眠の原因にもなるので野菜、果物、ヨーグルト等で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 全介助の人は要望が出ないが、本人が希望の表現をされた時は自宅で入浴されたように自由に入浴して頂く。	
			(外部評価) 職員の勤務時間内で利用者の希望に合わせている。入浴の苦手な利用者には、声かけの方法や職員の関わりを工夫しながら支援している。高齢の利用者が多いため、体調に合わせた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 暑がり、寒がりの人、その人の体調や生活習慣が違うので寝具、着衣で調節、安眠されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一日づつ仕分けてある、誤薬を防ぐため、服薬事に名前の確認、服薬事に床などに落ちてないか見護り介助、確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 料理を一緒にしたり、洗濯物などを一緒に行い昔の料理、家族の話をお聞きする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は外出支援、年2回の家族交流会、本人の思いに添った外出支援を身体状況にあわせて毎朝の散歩支援  (外部評価) 玄関先の広い駐車場は、外気浴には最適な場所となっている。学童保育の建物が隣接しているため、子どもがホームに届き、それが外出のきっかけになることもある。ホームの周りは自然が豊かで、季節の移り変わりを感じながら散歩ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している、ドライブなど外出先で自分の欲しい物を買われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の代筆、電話代行で外部との交流を支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 天気の良い日は施設の周囲を散歩され季節を感じて居られます。	
			(外部評価) 広い共用空間は、ソファやダイニングテーブルがゆったりと配置されている。車いすの利用者が移動しやすいようにテーブルの間隔も広くしている。広い壁面が殺風景にならないよう写真や季節を感じる飾りつけが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 冬場はコタツを置き、足を入れユックリと気分よく過ごされます。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使用されていた物を使って頂いて穏やかに過ごしていただけるよう支援している。	
			(外部評価) ベッドはホームの備品として用意されており、利用者の状況に合わせて、一般のベッドと介護用のベッドが使い分けられている。家具類を自由に持ち込み、利用者それぞれの個性が感じられる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要に応じて、居室の手すりの取り付けをしたり、トイレ、居室が分かるように工夫している。	